

二十六條、第二十八條、第七十四條及第九十六條ノ  
届出ヲ爲サス又ハ第二十一條ノ記録ヲ差出サス若  
ハ第三十六條、第六十條、第七十九條、第八十條、第  
八十二條、第八十三條及第九十四條ノ記録ヲ爲サ  
サル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又  
ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

(關)本則第十三條 起業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施  
行前其ノ履歷書ヲ添ヘ遞信大臣ニ届出ツヘシ爾後之ヲ變  
更シタル場合ニハ三日以内ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ届出ツヘ  
シ但シ遞信大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ  
命スルコトアルヘシ

第二十五條前條ノ認可ヲ受ケタル後電柱、埋線試驗口及線  
路ノ位置若ハ埋線ノ深サヲ變更シ又ハ供給區域内ニ於テ  
線路ヲ延長セムトスルトキハ其ノ都度關係書類ヲ添ヘ地  
方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ引込線ハ此ノ限ニ在ラス  
第二十七條 劇場、紡織工場又ハ火藥、石油其ノ他爆發燃

燒シ易キ危險ノ物品ヲ製造シ若ハ貯藏スル場所内ハ電氣  
ヲ供給セムトスルトキハ起業者、需用者及擔當技術者連  
署ノ上其ノ工事方法書ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受クヘ  
シ工事落成ノ後ハ三箇月毎ニ一回主任技術者ノ試験成績  
書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第四十七條 二箇以上ノ需用者ヘ共同引込線ヲ施設セムト  
スルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ此ノ場合ニ於  
テ家屋ニ接近シタル所ニハ特ニ善良ナル被覆線ヲ用フヘ  
シ

第六十四條 需用者ノ家屋内ヘ供給スル電氣ハ總テ低壓タ  
ルヘシ但シ特ニ高壓電氣ノ供給ヲ要スルトキハ其ノ理由  
ヲ記シ需用者ト連署ノ上地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
第六十五條 起業者ハ需用者ノ需メニ應シ供給時間中ハ其  
ノ契約セル電氣ヲ充分ニ供給シ正當ノ理由ナクシテ送電  
ヲ中止スルコトヲ得ス

第六十七條 架空ノ高壓電線ハ一線條ニ付五萬「ワット」  
以上其ノ他ノ場合ニ於テハ二十萬「ワット」以上ヲ送電  
スルコトヲ得ス但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ

(テ)電氣事業取締規則



限ニ在ラス

第六十八條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ幹線中或ル部分ヘ一時間以上送電ヲ中止スル必要アルトキハ避クヘカラサル事變ニ原因スルモノヲ除ク外如何ナル場合ト雖其ノ中止セル電力ハ架空電線ニ於テハ五萬「ワット」其ノ他ノ場合ニ於テハ二十萬「ワット」ヲ超過セサル様豫メ幹線ヲ施設スヘシ但シ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項中止ノ厚因火急ニ起リタル場合ノ外豫メ關係需用者ニ中止ノ旨ヲ通知スヘシ

第七十條 起業者ハ需用者家屋内ノ線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ障害ノ復舊スル迄送電ヲ中止スヘシ此ノ場合ニ於テハ豫告ノ違ナキトキノ外豫メ其ノ旨需用者ニ通知スヘシ

第七十三條 前條ノ認可ヲ受ケタル後電柱ハ埋線試験口及線路ノ位置又ハ埋線ノ深サヲ變更セムトスルトキハ其ノ都度關係書類ヲ添ヘ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八十三條 歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル

ル場合ニ於テハ起業者ハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試験シ其ノ成蹟ヲ記録シ置クヘシ

第九十一條 電車線ニ使用スル電流ハ直通ニシテ其ノ電壓ハ六百「ヴォルト」以下タルヘシ但シ六百「ヴォルト」以上ノ電壓又ハ交番電流式ヲ使用セムトスルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九十七條 起業者ハ其ノ使用ノ電柱ニ高サ地表上六尺乃至八尺ノ所ニ於テ其ノ起業者名竝ニ電柱ノ番號ヲ記スヘシ

第九十八條 高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第三百三條 起業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出ツヘシ但シ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

(テ)電氣事業取締規則



第四百四條 起業者ハ送電中ノ架空ノ電燈線、電力線又ハ電氣鐵道用電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ送電ヲ止メ又ハ開閉器ヲ開キ電流ヲ遮斷シ且其ノ區域内電線ノ各要所ニ晝間ハ標旗受間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第二十一條 遞信大臣又ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ第三十六條第六十條第七十九條第八十條第八十二條第八十三條及第九十四條ノ記録ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三十六條 屋外電路ノ絶縁力ハ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ供給電壓ノ每一百「ヴォルト」ニ對シ一里平均一百万「オーム」ヲ下ルヘカラス  
前項ノ絶縁力ハ毎年一回之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第六十條 屋内電線ノ絶縁力ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス  
前項ノ絶縁力ハ毎年一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第七十九條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ノ發電所ヨリ最近及最遠兩點間ニ於ケル電位ノ差及第八十條ニ規定スル接地点ヨリ發電機ニ向テ流ルル電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ装置ヲ爲シ毎日之ヲ記録シ置クヘシ

第八十條 前條ニ掲クル接地点ハ發電所ノ近傍ニ於テ大地ト二箇所ノ接續ヲナシ其ノ距離十間以上タルヘシ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地点間ニ二「アムペリア」以上ノ電流ヲ發セシムル様之ヲ施設シ起業者ハ之ヲ確ムル爲メ少クトモ毎月一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

前項地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設スヘシ  
本條ニ適合セル接地点ヲ得難キ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第八十二條 前條第一項漏洩電流ハ毎日一回第二項ノ絶縁力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第八十三條 歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ起業者ハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後

(テ)電氣事業取締規則



地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第九十四條 起業者ハ毎日運轉車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ヲ記録シ置クヘシ

第十九條 左ノ事項ハ三日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 事業ノ開始及廢止
  - 二 會社又ハ事務所名稱ノ變更
  - 三 會社又ハ事務所ノ位置及其ノ變更
  - 四 起業者又ハ主任技術者ノ改氏名
  - 五 取締役業務擔當者其ノ他事業管理若ノ氏名若クハ其ノ變更又ハ改氏名
  - 六 送電ノ中止但シ其ノ理由ヲ記スヘシ
- 第二十六條 引込線ニアラサル電燈線又ハ電力線ヲ増設シ若ハ撤去シタルトキハ三日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二十八條 引込線ヲ新設増設又ハ變更撤去シタルトキハ左ノ事項ヲ記シ毎月一回取纏メ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 需用者ノ住所氏名
  - 二 電燈ノ種類(自熱燈、弧狀燈ノ別)及其ノ箇數
  - 三 電動機ノ箇數及其ノ馬力數
- 第七十四條 左ノ事項ハ三日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ
- 一 鎖電線、幹線又ハ絶緣歸線ノ増設又ハ撤去
  - 二 車輛數及其ノ増減
- 第九十六條 起業者ハ其ノ事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ地方長官ニ届出ツヘシ



⑦傳染病豫防法

明治三十年四月  
法律第三十六號

(參)本法

第一條

此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶私、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布埤利亞(格魯布ヲ含ム)及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條

傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二十九條

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

(關)本法

第七條

傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳

染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得

第八條

當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家及其ノ近鄰ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十三條

死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十條

醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法

第三條

醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、

(テ)傳染病豫防法



檢疫委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第十

一條第一項第十二條ニ違背シタル者第五條第二項

ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者交通遮

斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出

ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以

上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法

第四條

傳染病又ハ其疑アル患者若ハ其ノ死體アリタル

家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若クハ檢案ヲ受ケ又ハ直

ニ其所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢

疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ

戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立學校病院、

製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場

其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ

代理者トス

第五條

傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ當該

吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

當該吏員ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其ノ近

鄰ノ家又ハ患者ト交通ヲ爲シタル家ニモ清潔方法及

消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第九條

傳染病患者及其死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ル

ニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條

傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當

該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、

遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條

傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト

認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカ

ラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認

可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條

傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警

察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過

(テ)傳染病豫防法



スル後ニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

⑦重要輸出品同業組合法明治三十年四月法律第四十七號

(參)本法

第一條

重要輸出品ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得  
重要輸出品及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第十八條

同業組合若ハ同業組合聯合會ノ検査證ヲ營業器ニ偽リテ附シタル者又ハ偽造若ハ摸造ノ検査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス



ア 阿片法 明治三十年三月  
法律第二十七號

第九條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ阿片ヲ製造シタル者又ハ第三條第二項ニ違背シタル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法 第一條 阿片ヲ製造セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條第二項 政府ノ賣下ケタル阿片ノ外ハ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

第十條 地方長官ノ許可ヲ受ケスシテ製造シタル阿片又ハ政府ノ賣下ケタルニ非サル阿片ハ之ヲ沒收ス

第十一條 第二條第一項ニ違背シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法 第二條第一項 阿片製造人ハ毎年拾貳月二十日迄ニ其製造シタル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

第十二條 第七條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法 第七條 阿片ハ前條ノ外醫師ノ處方箋ヲ以テスルニ非サレハ賣買スルコトヲ得ス

藥劑師ハ政府又ハ他ノ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ阿片ヲ零賣スルコトヲ得此ノ場合ニハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ

藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス政府又ハ藥劑師ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス  
第八條 處方箋竝ニ第六條ノ證書ハ其日付ヨリ滿十箇年間之ヲ保存スヘシ



(ア) 阿片法施行細則 明治三十年三月  
内務省令第四號

第十條 第四條第九條ニ違背シタル者ハ五十錢以上  
一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(關)本則 第四條 阿片卸賣人ハ其店頭ニ阿片卸賣所ト書シタル看  
板ヲ掲クヘシ

第九條 阿片卸賣人ハ毎年度ノ阿片受拂表正副二通ヲ製  
シ年度後一箇月以内ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十一條 第五條第八條ニ違背シタル者ハ二圓以上  
二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本例 第五條 阿片製造人及阿片卸賣人旅籍住所氏名ヲ變換ス  
ルカ又ハ廢業若クハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方  
廳ニ届出ツヘシ

阿片製造人及ヒ阿片卸賣人廢業シタルトキ又ハ死亡シ  
相續者其ノ業ヲ繼カサルトキハ既製ノ阿片及販賣殘餘  
ノ阿片ハ前項ノ期日内ニ納付シ又ハ買戻ヲ請求スヘシ  
但販賣殘餘ノ阿片ハ本條ノ期日内ニ同業者ニ讓渡スコ  
トヲ得

第八條 藥劑師藥種商ハ卸賣人タルト否トヲ問ハス阿片  
ノ受拂高並仕入元賣渡人ノ住所氏名年月日ヲ簿記シ十  
年間之ヲ保存スヘシ但藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ依  
リ患者ニ與フルモノハ本條ノ簿記ヲ要セス



㊦砂鑛採取法明治二十六年三月  
法律第十號

(衆)本法 第一條 此ノ法律ニ於テ砂金トハ砂金、砂錫及

砂鐵ヲ云フ

第二十二條 許可ヲ得スシテ採取ヲ爲シタル者又ハ  
詐僞ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以  
下ノ罰金ニ處ス

(關)本法 第二條 砂鑛ヲ採取セント欲スル者ハ所轄鑛山監督署長

ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

㊧砂鑛採取法施行細則(明治三十二年二月)  
農商務省令第四號

第九條 左ノ場合ニ於テハ採取人ヲ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第六條ノ手續ヲ爲ササルトキ
- 二 鑛業條例施行細則第二十五條又ハ第二十六條  
ノ規定ニ準シテ差出スヘキ書類又ハ圖面ヲ指  
定ノ期日迄ニ差出ササルトキ
- 三 鑛業條例施行細則第二十八條ノ規定ニ準シテ  
爲スヘキ立會ヲ爲サス又ハ調査事項ノ説明ヲ  
爲ササルトキ
- 四 鑛業條例施行細則第四十八條第四十九條又ハ  
第六十條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ届出ヲ爲サ  
サルトキ

(關)本則 第六條 採取人ハ第三號ノ雛形ニ準シテ前年中ノ砂鑛採

取法施行細則



取業明細表ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

採取人カ廢業シ又ハ採取業ヲ讓渡シタルトキハ三十日以内ニ第三號ノ雛形ニ準シテ調製シタル明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リテ明細表ヲ差出ス場合ニ於テ之ヲ起載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

鑛業條例施行細則

第二十五條

鑛山監督署長ハ公益上豫防ノ設備ヲ命スル必要アリト認ムルトキハ期日ヲ指定シ鑛業出願人又ハ鑛業人ヲシテ其設備ニ關スル設計書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十六條

鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛山監督署長ヨリ鑛業ニ關スル書類又ハ圖面ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日迄ニ之ヲ差出スヘシ

第二十八條

鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛山監督署長ヨリ試掘地鑛區其ノ他鑛業ニ關スル調査ノ爲メ立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會ヲ爲シ且調査事

項ニ關スル説明ヲ爲スヘシ立會ノ期日ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

立會ヲ命スルニハ正當ノ理由アル場合ヲ除ク外少クトモ十五日前ニ之ヲ豫告シ期日確定シタルトキハ少クト

モ三日前ニ之ヲ通知スヘシ鑛業出願人又ハ鑛業人カ自ラ立會ヲ爲スコト能ハサル

トキハ代理人ヲ差出スヘシ

第四十八條

相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名ヲ變更シタル鑛業人ハ戶籍吏ニ届出テタル日ヨリ三十日以内ニ其證明ヲ受ケ且鑛業特許證又ハ借區券ヲ添附

シテ所轄鑛山監督署長ニ届出テ其訂正ヲ受クヘシ鑛業出願人カ死亡シタルトキ又ハ其氏名ヲ變更シタル

トキハ前項ニ準シテ届出ヲ爲スヘシ

第四十九條 會社カ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テ其社名又ハ代表者ヲ變更シ其ノ營業所ヲ移轉シ又ハ

會社カ解散シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

第六十條 本令施行ノトキニ於テ會社カ鑛業出願人又ハ



第十條 鑛業人タル場合ニ於テハ本令施行ノ日ヨリ三十日以  
内ニ其ノ代表者ヲ所轄鑛山監督署長ニ届出ツヘシ  
前條ノ規定ハ會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス

蠶種検査法

明治三十年三月  
法律第十號

(參)本法

第一條 此ノ法律ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種  
及ヒ製絲用種ノ越年スルモノヲ謂フ

第十七條 此ノ法律中蠶種ノ製造及検査ニ關  
スル規定ハ自家用ノ蠶種ノミヲ製造スル者  
ニ適用セズ

第十八條 學術研究ノ爲農商務大臣又ハ地方  
長官ノ承認ヲ得蠶種ヲ製造スル者及其ノ製  
造シタル蠶種ニハ本法ヲ適用セズ但シ賣渡  
スコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第五條第七條及第八條第二  
項ニ違背シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ  
處ス

(關)本法 第三條 蠶種ハ左ニ掲クル繭ヲ以テ之ヲ製造スルコト  
ヲ得ス

- 一 二蠶以上合同シテ作リタル繭
- 二 繭層片薄ナル繭若ハ形狀ヲ失スルコト著シキ繭

三百七十五

(サ)蠶種検査法



三 繭層薄弱ニシテ繭ノ全量百ニ對シ繭層ノ量春蠶ニ在リテハ八、夏秋蠶ニ在リテハ六ニ達セサルモ

第四條 蠶種ハ原種ヨリ産出シタル繭ヲ用非ルニ非ツレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

第五條 蠶種製造者ハ收繭後及産卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ繭蛾卵製絲用種ニ在リテハ繭、卵ノ検査ヲ受クヘシ

第七條 此ノ法律地方ニ於テハ検査合格ノ證印ナキ蠶種ヲ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得ス

第八條 此ノ法律施行ノ地方ニ於テ必要アリト認めタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律施行地以外ニ於テ製造シタル製絲用種ノ買受又ハ讓受ヲ認許スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ卵ノ検査ヲ受ケシムヘシ

第十五條 第六條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以上ノ罰金ニ處ス

(關)本法

第六條 第三條ニ掲ケタル繭ハ收繭後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ

原種ノ掃殻蠶種ノ製造ニ供用シタル繭及原種ノ製造ニ供用シタル母蛾ハ産卵後ノ検査ヲ經ルマテ之ヲ保存スヘシ

第十六條 第九條第二項ニ違背シタル者ハ五拾錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(關)本法

第九條 地方長官ハ蠶種検査員ヲシテ養蠶期中蠶種製造者ニ就キ掃立蟻量ノ多寡生育ノ狀況及病蠶ノ有無ヲ視察セシムルコトヲ得

蠶種製造者ハ前項ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス



④産婆規則 明治三十二年七月勅令第三百四十五號

第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 産婆名簿ニ登録ヲ受ケスシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者

二 産婆名簿ノ登録ヲ取消サレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

三 産婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者

四 第三條ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者

五 第七條乃至第九條ニ違背シタル者

(關)本則

第一條 産婆試験ニ合格シ年齢二十歳以上ノ女子ニシテ産婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ非サレハ産婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 産婆試験ハ地方長官之ヲ舉行ス

第三條 一箇年以上産婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ産婆試験ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 産婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

産婆名簿ニ登録ヲ受ケントスル者ハ産婆試験合格證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登録事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ産婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登録事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第五條 産婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ産婆名簿ノ登録ヲ願出ツヘシ  
前項ノ登録換ヲ爲ササル者ハ産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 産婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ

産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

産婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

(サ)産婆規則



第七條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムル時ハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 產婆ハ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ射シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用非藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 產婆ハ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケサル者ニ妊婦產婦褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス

第十條 產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得產婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條 試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無効トスルコトヲ得若シ已ニ登錄ヲ受ケタルトキハ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ產婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

ヲ得

第十三條 產婆試驗ヲ受ケントスル者又ハ產婆名簿ニ登錄ヲ願出ツル者ニシテ試驗又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條 產婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癱疾ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ產婆名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十五條 產婆名簿ノ登錄、登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂正並產婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

(關)本則 第四條第三項 產婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ產婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

(サ)產婆規則



第五條第二項 前項ノ登録換ヲ爲ササル者ハ產婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 產婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ  
產婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

⊙ 危害品船積法則 明治六年八月布告 第二百九十二號

危害ヲ生スヘキ物品漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

〔關〕一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事  
一 尋常ノ物品トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然レモ其荷物中ニ危害品

(キ) 危害品船積法則



有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

此危害品ヲ船積セサル以前運送會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ著港ノ上直ニ其次第書及荷主ノ姓名ヲ其地ノ「管轄廳或ハ裁判所」ヘ可届出事

但投棄シタル料物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事

船長及運遭會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴ヘ出サル時ハ金二百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

(キ)寄留届出方明治十九年九月内務省令第十九號

第十條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者

ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(關)本命

第六條 他府縣又ハ他都市區他町村ニ寄留シタルトキ自

己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ寄留者及ヒ地主又ハ家主又ハ其地所、其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地ノ戸長ニ届出且ツ同時ニ本籍地戸長

ヘ届書ヲ發送ス可シ

第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者

ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所又ハ其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ツ可

シ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主ニ本人ヨリ

十日以内ニ届出ツ可シ

(キ)寄留届出方



㊦ 議會並議員ノ保護明治二十二年十一月  
法律第二十八號

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀  
侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ  
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ  
待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲  
ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘ  
タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以  
上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其  
言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重  
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上  
ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅

迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重  
禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但  
被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シ  
タル者ハ刑法ノ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加  
ヘ重キニ從テ處斷ス

《參》刑法第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重  
懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩  
肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪  
失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧  
シ癱疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ  
又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以  
上三年以下ノ重禁錮ニ處ス  
其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以

(キ)議會並議員ノ保護



下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一  
日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條

豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ  
致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シ  
テ其罪ヲ免カルル爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ

例ニ同シ

第三百四條

毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆  
打創傷ノ本刑ヲ料ス

第三百五條

二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手  
ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆

シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑

ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

第三百六條

二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷  
セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シ

タル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百七條

健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシ  
メタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條

人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害  
ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

(キ)議會並議員ノ保護



①郵便條例 明治十五年十二月  
布告第五十九號

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第

六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ

二圖以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本例 第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物ト爲スヘカラス

一 毒藥、劇藥、爆發燃燒シ易キ物品

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植

物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ

物品但十分ノ豫防ヲ爲シ「郵便局」若クハ郵便受取所ノ

承認ヲ受ケタル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫眞及物品

一金銀、寶玉

一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ「郵便局」郵便受

取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條 「郵便局」郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切

手封皮葉書往復葉書ノ印面稅額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカ  
ラス

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ  
託ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時

ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ「郵便局」ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ

其期ヲ變更スヘカラス

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物ト

ナスヘカラス

一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一流動物、流動腐敗シ易キ物、孵化スヘキ物、動物、植物、

鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品

一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條

ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科

料ニ處ス

（ニ）郵便條例



〔關〕本例

第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外別配達料船料貨幣運送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條 「郵便局」所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託ヲ受クヘカラス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタル

モノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本例

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書メ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ヲ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以

上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔關〕本例

第六十七條 書狀ハ「郵便局」ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

- 一 送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
- 一 郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
- 一 貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シ

〔二〕郵便條例



タルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本例 第六十八條 軍艦及海軍附屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ

往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ「驛遞局」又ハ

「郵便局」ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ

運送ヲ託スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アル

ルモノハ此限ニアラス

一 第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

一 第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ

發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ「驛

遞局」又ハ「郵便局」ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ

以テ郵便物ノ運送ヲ託スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但

別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七

十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處ス

〔關〕本例 第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全

ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵

便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸

揚スヘカラス

第二百三十三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造

變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年

以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

〔參〕刑法 第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便

切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ

一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手

ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

〔五〕郵便條例



第二百三十四條 已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

〔參〕 刑法 第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

〔關〕本例 第二百三十四條第一項 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ又其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔註〕郵便條例



納税又ハ不足税ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 「驛遞總官」ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ「驛遞局」認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

〔參〕本例 第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ證シテ「驛遞總官」ノ認可ヲ受ケ「驛遞局」認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附録ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第二百四十條 未納税又ハ不足税及ヒ別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
郵便事務ヲ奉スルモノ徴収スヘキ便税別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徴収セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其未タ消印ヲナササル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

〔參〕刑法 第二百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタルモノハ竊盜ノ

(ニ)郵便條例



罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領収セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スル者諸般ノ計數ヲ僞ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモトハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑

(エ)郵便條例



法ニ據テ處斷ス

(關)刑法

第九十八條

官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便

切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ

一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第九十九條

已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手

ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

ス

(ニ)郵便聯合國郵便切手類保護法明治二十五年六月  
法律第三號

第一條

郵便聯合國條約國政府ノ發行スル郵便切手、

封皮、葉書又ハ帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知

テ之ヲ使用シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮

ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條

已ニ貼用シタル郵便聯合國政府發行ノ

郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第三條

第一條ニ記載シタル罪ヲ犯サムトシテ未タ

遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四條

第一條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處

スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第五條

此ノ法律ハ明治二十五年七月一日ヨリ施行

ス

(ニ)郵便聯合國郵便切手類保護法



⑤ 民事訴訟用印紙法明治二十三年八月  
法律第六十五號

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒収ス其情ヲ知デ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒収ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

⑥ 水先法明治三十二年三月  
法律第六十三號

第二十二條 水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若クハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス  
水先人ニ非サル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若クハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ亦同シ

(參)本法 第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス  
水先人ニ非サル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第十九條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス  
一 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ

(三)水先法



二 加へ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ  
過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致  
シタルトキ

三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四 亂醉、粗暴其他ノ失行アリタルトキ  
水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ  
依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ一二圓以上二百  
五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營  
ミタル者及ヒ之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタ  
ル者
- 二 第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ  
違反シタル者
- 三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授  
受シタル者

四

水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者  
詐偽ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若クハ積量ニ  
付キ水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫  
水ノ標識ヲ變更シタル者

六

水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正  
當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ  
應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導  
セサル者

七

水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ナ  
ル理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セ  
シメス又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水  
先區外ニ伴ヒタル者

八

水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮  
導シタル者

(三)水先法



〔關〕本法第四條 水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

- 一 公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ
- 二 水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ

第八條 水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應ス

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ白已ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危難ニ罹リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規定ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

第十三條 水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十五條 水先案内料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

水先人ニ非サル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二十四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ一二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者
- 三 水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者

四 第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ躉裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セス

(三)水先法



シテ水先船ヲ使用シタル者

五 水先人ニアラスシテ水先旗若クハ之ト誤認

シ易キ旗ヲ船舶ニ掲揚シ又ハ海上衝突豫防

法第八條ノ點燈及ヒ信號ヲ爲シタル者

六 水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ

定ムル規定ニ從ヒテ艤裝シタル水先船又ハ

之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者

〔關〕本法第五條 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及ヒ水

先法令書ヲ携帯スヘシ

水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要

招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開

示スヘシ

第六條 水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乗込ミタル

トキハ晝間ニアリテハ水先旗ヲ掲揚シ夜間ニ在リテハ海

上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條 水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘ

シ

第十一條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキ

ハ其ノ氏名及ヒ水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキ

ハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏

名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要

求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ

爲スヘシ

第十六條 水先人ハ水先修業生一名ヲ限リ水路ヲ嚮導スヘ

キ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスル

トキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制

限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及ヒ艤裝ニ

關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

海上衝突豫防法 第八條 水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲナストキハ他船

(三)水先法



ニ要スル燈ヲ掲クヘカラス單ニ周圍ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ橋頭ニ掲ケ且ツ十五分時ヲ超エサル間隙ヲ以テ閃火一箇又ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ右ノ外綠紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近奇リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要スル船舶ヘ直付クスヘキ水先船ハ白燈ヲ橋頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ揚クル代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用井タル燈籠一箇ヲ手近カニ備ヘ置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ササルトキハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ

**第二十五條** 船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以

下ノ罰金ニ處ス

〔關〕水先法施行細則 第十四條 水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ喫水十二呎又ハ十二呎未滿ノ船舶ニ付キテハ第一號表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若クハ千噸未滿又ハ喫水一呎若クハ一呎未滿ヲ増ス毎ニ同表ニ定ムル額ニ百分ノ三ヲ加フ

**第二十六條** 水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲メ水先人ニ非サル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及ヒ第二十三條第八號ノ規定ヲ適用セス

〔關〕本法第二十三條第八號 水先人ニ非スシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者ハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
**第二十五條** 船長水先區ニ於テ水先人ニ非サル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

**第二十七條** 此法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代

(三)水先法



リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第一號表

東京灣	水先區	航路	
		航路	水先案内料 汽船 帆船
		水先區境界線ヨリ横濱錨地マテ 又ハ横濱錨地ヨリ水先區境界線マテ	三〇円 四五円
		水先區境界線ヨリ品川錨地マテ 又ハ品川錨地ヨリ水先區境界線マテ	四〇 六〇
		横濱錨地ヨリ品川錨地マテ 又ハ品川錨地ヨリ横濱錨地マテ	一五 二五
		友ヶ嶋水道ヨリ神戸錨地マテ 又ハ神戸錨地ヨリ友ヶ嶋水道マテ	三〇 四五
		友ヶ嶋水道ヨリ大阪錨地マテ 又ハ大阪錨地ヨリ友ヶ嶋水道マテ	四〇 六〇
		神戸錨地ヨリ大阪錨地マテ 又ハ大阪錨地ヨリ神戸錨地マテ	一五 二五
		神戸錨地ヨリ門司若クハ下ノ關錨地マテ 又ハ門司若クハ下ノ關錨地ヨリ神戸錨地マテ	一〇〇 一七五

函館港	長崎港	内海	
		内海	内海
		神戸錨地ヨリ水先區西境界線マテ 又ハ水先區西境界線ヨリ神戸錨地マテ	一〇〇 一七五
		門司若クハ下ノ關錨地ヨリ水先區西境界線マテ 又ハ水先區西境界線ヨリ門司若クハ下ノ關錨地マテ	二五 三五
		門司若クハ下ノ關錨地ヨリ下ノ關海峽東口マテ 又ハ下ノ關海峽東口ヨリ門司若クハ下ノ關錨地マテ	二五 三五
		水先區西境界線ヨリ下ノ關海峽東口マテ 又ハ下ノ關海峽東口ヨリ水先區西境界線マテ	四〇 五〇
		豊後水道北口ヨリ門司若クハ下ノ關錨地マテ 又ハ門司若クハ下ノ關錨地ヨリ豊後水道北口マテ	五〇 八〇
		豊後水道北口ヨリ水先區西境界線マテ 又ハ水先區西境界線ヨリ豊後水道北口マテ	七〇 一〇〇
		豊後水道北口ヨリ神戸錨地マテ 又ハ神戸錨地ヨリ豊後水道北口マテ	一〇〇 一七五
		水先區境界線ヨリ港内錨地マテ 又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線マテ	二〇 三〇
		水先區境界線ヨリ港内錨地マテ 又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線マテ	二〇 三〇

(三)水先法



①種痘規則 明治十八年十一月  
布告第三十四號

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及  
第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料  
ニ處ス

〔關〕本則

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若  
シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ  
再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限  
ニ掲ハラヌ掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘ  
シ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第  
二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣  
ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ鄰保ノ證印ヲ爲シタル  
證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ツヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢

診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場  
ニ届出ツヘシ但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ  
受項シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシ  
テ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ  
貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ  
任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與  
スヘシ但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條  
ニ準シ其證ヲ付與スヘシ



①新聞紙條例 明治二十年十二月  
勅令第七十五號

(參)本法 第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルト

キハ刑法徵収處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其闕額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又

ハ第六條第七條第十一條第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(シ)新聞紙條例



①新聞紙條例明治二十年十二月  
勅令第七十五號

(參)本法

第二十四條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條

新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條

裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルト

キハ刑法徵收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其闕額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又

ハ第六條第七條第十一條第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(シ)新聞紙條例



第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

(關)本例 第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳東京府ハ警視廳ヲ經由シテ内務省ニ届出ツヘシ

第三條、届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ツヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ツヘシ  
第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルキトハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ツヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第六條 年齢滿二十年以上ニシテ帝國內ニ居住スル者ニアラサレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省及二部管轄廳東京府ハ警視廳及管轄「始審裁判所」檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハ警視廳ニ納ムヘシ

- 一 東京ニ於テハ千圓
  - 一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
  - 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
  - 一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額
- 保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得



學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノ  
ミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキ  
ハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本例 第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項  
ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁  
書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求メヲ受ケタル後チ其次  
回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁  
書ノ全文ヲ掲載セヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ  
二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付キ其新聞社ノ  
定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得  
正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ  
掲載スヘシ

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ  
正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルルトキ又ハ之ヲ  
求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要  
セス

其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載  
シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新  
聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ス  
ヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス  
第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタ  
ルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載  
スヘシ

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキ  
ハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓  
以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本例 第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セザ  
ル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス  
傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコト  
ヲ得ス

第十七條 刑事ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載  
スルコトヲ得ス  
刑事ノ被告人又ハ法律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ

(シ)新聞紙條例



賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ詳畧ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

(關)本例 第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第三十一條 第二十二條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二百圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本例 第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第三十一條ノ二 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人ヲ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本例 第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ「拓殖務大臣」ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止スルコトヲ得

裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
本條ヲ犯シタル者ハ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒収ス

(シ)新聞紙條例



〔關〕本例 第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ  
告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ「拓殖務大臣」ハ其新  
聞紙ノ發費領布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル  
論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止  
スルコトヲ得  
裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又  
ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ  
禁止スルコトヲ得

第三十三條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ壞亂スル事項ヲ  
記載シタルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下  
ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
〔參〕本例 第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シ  
告發ヲ爲ストキハ内務大臣又ハ「拓殖務大臣」ハ其新  
聞紙ノ發費領布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其告發ニ係ル  
論說又ハ事項ト同一主旨ノ論說又ハ事項ノ記載ヲ停止  
スルコトヲ得  
裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又

ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ  
禁止スルコトヲ得

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノ  
ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

〔關〕本例 第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項  
ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤書辨駁書ノ掲載  
ヲ求メタルトキハ其求メヲ受タル後チ其次回又ハ第三  
回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ  
掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過  
スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通  
廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得  
正誤辨駁ハ原文ト同號活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲  
載スヘシ  
正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルルトキ又ハ之ヲ  
求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要  
セス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減

〔シ〕新聞紙條例



輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇

トス

(衆)刑訴 第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一 違警罪ハ六月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

㊦衆議院議員選舉法明治二十二年二月  
法律第三號

第八十九條 納稅額、年齡、住所及其ノ他選舉資格ニ

必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタ

ル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ

他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以

テ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形若クハ公私ノ職

務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタ

ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

(關)補則第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ

爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場

又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉

人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル

爲車馬ノ類ヲ給シ及ヒ其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ選舉

(シ)衆議院議員選舉法



人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ沐浴料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シ及其ノ代辦又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第九十一條

直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス  
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲ササル者亦同シ

〔關〕刑法第二百三十四條

賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十二條

投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ

以テ選舉人ニ暴行ヲ行ヒタルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔關〕補則第二條

第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其ノ往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス  
本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第九十三條

選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔關〕補則第二條

第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其ノ往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ



其ノ選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス  
本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ノ目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第九十四條 選舉人ヲ脅逼シ又ハ投票所若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知リテ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

〔關〕補則第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣

勢ヲ張ル爲メ多衆聚合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火、松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ル等ノ所業ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍ホ其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯レタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知リテ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年



以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各々本刑

ニ一等ヲ加フ

〔關〕刑法第三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其ノ他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其ノ嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス附加隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

補則第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲メ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火、松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲナシ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍ホ其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十七條 演說又ハ新聞紙若クハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑

法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ效ナキ者モ仍ホ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

〔關〕刑法第百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ投票所若クハ選舉場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

〔關〕補則第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

〔參〕補則第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ



又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及ヒ其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辦シ又ハ代辦スルコトヲ約束シ及其ノ代辦又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其ノ往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲナシテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五十圓以上五十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火、松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲナシ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍ホ其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百條

他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲナシタル者及

第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ

爲シタルトキハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法第十四條

トヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

(シ)衆議院議員選舉法



- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 六 賭博犯ニ依リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラ

レ又ハ及ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ闕クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(參)本法第三十三條 町村長ハ其管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ

期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辞スルコトヲ得ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

(關)刑法第三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタルトキハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ作り投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所爲アルトキハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(シ)衆議院議員選舉法



第四百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

(參)刑訴第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一 違警罪ハ六月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

補則第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百四條ノ

例ニ依ル

第四百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

(參)本法第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必

要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ル

コトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說、討論、及喧譟ニ

涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長

ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ

退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除

ク外其ノ投票ヲナサシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ル

ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此

ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓

名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對

シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ

於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ凡テ第六十九條ヨリ第七

十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ



② 沖繩縣酒類出港稅則 明治二十一年三月 勅令第十二號

第六條 出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

(關)本則 第一條 沖繩縣内ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國內ノ他ノ地方ニ移出スルトキハ其ノ石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ出港稅ヲ課ス

- 第一種 精酒、濁酒、白酒、味淋 一石 金十二圓
  - 第二種 燒酎、酒精 一石 金十三圓
  - 第三種 混成酒 一石 金十三圓
- 攝氏驗温器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量第一種第三種ニ在テハ二十第二種ニ在テハ五十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ増ス毎ニ前項ノ金額ニ一圓ヲ加フ

第七條 第四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本則 第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ届ツヘシ

那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ツヘシ

第八條 主任官吏ノ検査ヲ拒ム者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(參)本則 第五條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第九條 此稅則ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條 前條ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ



② 醬油稅則 明治二十一年六月 勅令第四十七號

第十九條 第一條第二項ニ該當セサル者ニシテ免許ヲ受ケス醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石數ニ應シ第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

〔關〕本則

第一條

醬油併稱スヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所

毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルト

キハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

自家用料ノミノ醬油ヲ製造スル者ニシテ一家一箇年ノ

諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止マルモノハ前項

ノ免許ヲ受クルヲ要セス但左ニ記載スル者ハ此限ニ在

ラス

一 醬油請賣人

二 料理店、飲食店、旅人宿營業者

三 前二號ノ者ト同居スル者

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ但自家用料

ノミノ醬油ヲ製造スル者ハ半額トス

造石稅 醬油ハ諸味一石ニ付 金二圓  
溜ハ製成一石ニ付 金二圓

第二條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其

石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同

シ

〔關〕本則

第十條

醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡

讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此

限ニ在ラス

〔參〕第六條第一項

但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場

合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人

ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從

ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依托ヲ受ケ



又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人又ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十六條ヲ犯シタル者第十五條ノ申告ヲ爲ササル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十六條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其總石數ニ第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

(關)本則

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後

十日以内ニ官廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタル

トキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スル

トキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等己ムヲ爲サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十五條 第一條第二項ニ該當スル者ハ政府ニ申告スヘシ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ爲ス

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ但自家用料ノミノ醬油ヲ製造スルモノハ半額トス

(シ)醬油稅則



造石税 醤油ハ諸味一石ニ付 金一圓  
溜ハ製成一石ニ付 金二圓

第二十二條

第六條ノ検査ヲ受ケサルモノ及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本例

第六條

醤油製造人廢業ノ際査定未済ノ醤油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出石數ノ査定ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ但其醤油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出検査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石税ヲ納ムルコトヲ得製造場二箇所以上ニ於テ醤油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醤油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出検査ヲ受クヘシ

(參)警施

第二十條

醤油製造人ハ醤油製造用原料品ノ受拂、醤油ノ仕込、製成、出入、消費ニ關シ詳細ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第二十三條

第一條第二項ニ該當スル者一石ヲ超エテ諸味ヲ仕込ミ又ハ溜ヲ製成シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ總石數ニ第二條ノ造石税ヲ課ス

前項ノ造石税ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

(關)本法

第一條

醤油溜ヲ併稱スヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所

毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

自家用料ノミノ醤油ヲ製造スル者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止マルモノハ前項ノ免許ヲ受クルヲ要セス但左ニ記載スル者ハ此限ニ在ラス

一 醤油請賣人

二 料理店、飲食店、旅人宿營業者

三 前二號ノ者ト同居スル者

第二條 醤油製造人ハ左ノ造石税ヲ納ムヘシ但自家用料

(シ)醤油税則



ノミノ醤油ヲ製造スルモノハ半額トス

造石税 醤油ハ諸味一石ニ付 金二圓  
溜ハ製成石ニ付 金二圓

第二十四條 此税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再

犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第二十五條 醤油製造人ノ家族雇人ニシテ此税則ヲ

犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醤油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖

啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰

ス

①市町村會議員選舉罰則 明治二十三年五月  
法律第三十九號

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選

舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ十圓以上二十圓以

下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナ

リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ

他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以

テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務

ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル

者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ

近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食

(シ)市町村會議員選舉罰則



ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ  
タル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス  
其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲  
ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊  
料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者  
ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス  
其代辨ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ  
爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑  
法第二百二十四條ノ例ヲ以テ論ス

(關)刑法第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受  
ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處  
シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴

行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ  
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅  
逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ  
手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六  
條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ  
第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上  
二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅逼シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又  
ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ  
多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮  
ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(シ)市町村會議員選舉罰則



其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等

ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍ホ其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス



第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類  
ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ選  
舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓  
以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處  
セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條ア  
ルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免  
除トス

(參)刑訴第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一 違警罪ハ六月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明  
治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ  
議會ノ議員選舉ニモ適用ス



①商法(破産法)明治二十三年三月  
法律第三十二號

第一千五十條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止  
又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス履行スル意ナキ義務  
又ハ履行スル能ハサルコトヲ知リタル義務ヲ負擔  
シタルトキ又ハ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思  
ヲ以テ貸方財産ノ全部若ハ一部ヲ藏匿シ轉匿シ若  
クハ脱漏シ又ハ借方現額ヲ過度ニ掲ケ又ハ商業帳  
簿ヲ毀滅シ藏匿シ若クハ偽造、變造シタルトキハ  
詐欺破産ノ刑ニ處ス

〔關〕明治二十三年十月法律第百壹號

一 詐欺破産ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第一千五十一條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停  
止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲クル行爲ヲ  
爲シタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處ス

- 第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用、博奕、空取  
引又ハ不相應ノ射利ニ依リテ貸方財産ヲ甚シ  
ク減少シ若クハ過分ノ債務ヲ負ヒタルトキ
- 第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル  
取引ヲ爲シテ支拂資料ヲ調ヘタルトキ
- 第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲  
シテ或ル債權者ニ利ヲ與ヘ財團ニ損害ヲ加ヘ  
タルトキ
- 第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ  
又ハ全ク記載セサルトキ
- 第五 財産目錄、貸借對照表ノ作成若クハ支拂  
停止届出ノ義務ヲ怠リタルトキ又ハ裁判所ノ  
許可ヲ得スシテ其住地ヲ離レタルトキ

〔關〕明治二十三年十月法律第百壹號

(シ)商法(破産法)



二 過怠破産ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第一千五十二條 前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第一千五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

②衆議院議員選舉法罰則補則 明治二十三年五月法律第四十號

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ供シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ選舉人ノ爲ニ選舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員選舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

衆選第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五十圓以上五十圓以下

(シ)衆議院議員選舉法罰則補則



ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦タ同シ

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其ノ往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員選舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

(關)衆選第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓

以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ヲシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 選舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(關)衆選第九十四條 選舉人ヲ脅迫シ又ハ投票所若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留、毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處

(シ)衆議院議員選舉法罰則補則



シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第四百四條ノ例ニ依ル

(關)衆選第百〇四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六個月ヲ以テ期滿免除トス

(衆)刑訴第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

- 第一 違警罪ハ六月
- 第二 輕罪ハ三年
- 第三 重罪ハ十年



シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二  
月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等  
ヲ加フ

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ  
公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ  
處ス

第六條 當選人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラ  
レタルトキハ衆議院議員選舉法第九十九條ノ例ニ  
依ル

〔關〕衆選第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至  
ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員選舉法第百  
四條ノ例ニ依ル

〔關〕衆選第百〇四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六個月ヲ以テ期滿免除  
トス

〔衆〕刑訴第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因  
テ成就ス

- 第一 違警罪ハ六月
- 第二 輕罪ハ三年
- 第三 重罪ハ十年



① 獸醫免許規則 明治二十三年八月  
法律第七十六號

第十條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ  
五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本則第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル  
者ニ限ル

第二條 獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 獸醫免許試験ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者
  - 一 官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ  
專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル  
學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
  - 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同  
等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ  
有スル者
- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケン  
ト欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地  
方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸  
醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ  
其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其  
ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタル  
トキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農  
商務大臣ニ出願スヘシ

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官  
府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者  
ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及ヒ年限ヲ定メ獸醫  
假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十一條 獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ一圓  
以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本則第八條 獸醫業ニ關シ犯罪者ハ不正ノ行爲アリタルトキハ  
農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内  
ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止ス

(シ)獸醫免許規則



ルコトアルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ  
獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經

過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲ス

ル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他

人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢

以下ノ科料ニ處ス

シ 集會及ヒ政社法

明治二十六年四月  
法律第十四號

(參)本法第一條 此法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義

ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル

爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ

名義ヲ以テスルニ拘ラス政事ニ關ル事項ヲ目的トシ

テ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

(參)第二十七條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ

法律ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開

キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起

人罰前項ニ同シ

(關)本法第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ

會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ

(シ)集會及ヒ政社法



政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印ス  
ヘシ

- 一 集會ノ場所
  - 二 集會ノ年月日時
  - 三 發起人ノ氏名、住所
  - 四 講談論議者ノ氏名
- 前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領収書ヲ  
交付スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過ギテ開會セス若ハ  
三時間以上中斷スルトキハ届出ノ效ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權  
ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限り會同スル所ノ  
集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス  
〔衆〕第二十二條 政社ニシテ政談會ヲ開クトキハ第二條

ノ手續ヲ爲スヘシ但シ此會場及講談論議者ヲ豫定  
シ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時  
間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス  
其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ

手續ニ依ルヘシ

第十五條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若ハ運動  
ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五十圓以下ノ

罰金ニ處ス

〔關〕本法第三條

屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスル  
トキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年  
月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認  
可ヲ受クヘシ但シ祭葬、講社、學生生徒ノ體育運動其ノ  
他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意志ヲ表スル  
ノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由  
ノ交通ヲ遮斷シタル地域内ニ限ルモノトス

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場  
合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第十六條 第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日

以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰



金ニ處ス

(關)本法第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以內ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第十七條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ一圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

(關)本法第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

- 一 日本臣民ニ非サル者
  - 二 公權剝奪及停止中ノ者
- 第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス
- 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
  - 二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法第九條 集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ攜帶シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ攜帶スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法第十條 集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆ス

(シ)集會及ヒ政社法



ルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散

セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル

者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法第十一條 會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ル者

アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ

會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ム

ルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコ

トヲ得

一 集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ

二 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス

又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

三 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルト

キ

四 第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ

命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

五 集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第三十條 第二十一條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問

ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ

同シ

(關)本法第二十一條 政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名、社則、事務

所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届

出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ

交付スヘシ

役員ハ其政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ

之ニ答フヘシ

(シ)集會及ヒ政社法

四百七十五



第三十一條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

〔關〕本法第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

- 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
  - 二 警察官
  - 三 官立公立私學校ノ教員學生生徒
  - 四 女子
  - 五 未成年者
  - 六 公權剝奪及停止中ノ者
- 第二十四條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第三十二條 第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用井タル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ

〔關〕本法第二十五條 政社ハ標章旗幟ヲ用井ルコトヲ得ス

第三十一條 第三十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十三條 第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法第二十六條 政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス

第三十四條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ

十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法第二十九條 結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第三十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用井ス

〔關〕刑法第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首

(シ)集會及ヒ政社法



減輕ノ限ニ在ラス

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贖物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之

ヲ論スルヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯罪再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴収ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十八條 三犯以上ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス



第百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス  
 若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ  
 第百二條 一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕  
 ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ  
 前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ  
 該リ己ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ  
 後發ノ刑期ニ通算ス  
 若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱  
 ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑  
 ヲ通算セス

第三十六條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時效ハ六箇月ヲ  
 經過スルニ由リ成就ス  
 (參)刑刑訴第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス  
 第一 違警罪ハ六月  
 第二 輕罪ハ三年  
 第三 重罪ハ十年

シ 出版法 明治二十六年四月  
 法律第十五號

(參)本法第一條 凡ソ機械舍密其ノ他何等ノ方法ヲ以テス  
 ルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ  
 頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編  
 纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣  
 頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當ス  
 ル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ  
 外文書圖書ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但  
 シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル  
 雜誌ヲ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書ヲ出版  
 シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘ  
 キ日數ヲ除キ三日前製本二部ヲ添へ内務省ニ届出ヘシ

第二十條 第十六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下

(シ)出版法



ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法第六條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖畫ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニス

〔關〕本法第七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前項ニ同シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ

營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セ

サル者亦前項ニ同シ

〔關〕本法第八條 文書圖畫ノ印刷者ハ其氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ

印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス  
前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行印刷者、ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕



禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條

ニ觸ルル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發

行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上

二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル

文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未

タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

〔關〕本法第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁

判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ

得ス 第十七條 重罪輕罪ハ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル

以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス 傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官

ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ

之ヲ出版スルコトヲ得ス

法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコ

トヲ得ス

第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認

ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發

賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序

ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大

臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印

本ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ開スル文書圖書ハ當該官廳ノ許

可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場

合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押フ

ルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨ

リ其ノ差押フヘキ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ

(シ)出版法



分割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

(參)刑訴第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

- 第一 違警罪ハ六月
- 第二 輕罪ハ三年
- 第三 重罪ハ十年

①質屋取締法明治二十八年三月法律第十四號

第二十二條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ一圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品帳簿ヲ毀損亡失シタル者
- 二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第八條一項及第十九條ニ違反シタル者

(關)本法第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ支店ヲ設クルトキ亦同シ

廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ得ス轉質ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ禁止スルコトヲ得

第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ質物

(シ)質屋取締法



及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得

警察官ニ於テ物品ヲ押収シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ

第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スルコトヲ得

禁止及停止ノ効力ハ全國ニ及フ

第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期間亦同シ

第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ一圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法第一條第二項 廢業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質置主ニ於テ

其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

第四條 住所、氏名ノ詳カナラサル者ヨリ物品ヲ質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質置主ニ交付スヘシ

帳簿、質札及通帳ノ製方様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

- 一 利子割合
- 一 流質期限
- 一 質物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方
- 一 質物出入時間

第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消

(シ)質屋取締法



毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコトヲ得ス  
前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セサルモノト認  
ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシメ命ニ從ハサレハ之ヲ官  
沒ス

第十四條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ  
品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相  
當スル物品ヲ質ニ取り若ハ質物トシテ占有セルコトヲ覺  
知スルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ

第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察  
官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪  
俱發ノ例ヲ用井ス

(參)刑法 第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發  
シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス  
重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ  
者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス  
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第一百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科  
ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從  
テ

第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其  
輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ  
論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金  
科料ニ該リ己ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ  
折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト  
俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發  
ノ刑ヲ通算セス

第二十五條 質屋營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所  
爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス



②質屋取締法細則 明治二十八年七月  
内務省令第九號

(參)本則 第一條 質屋取締法及此細則ニ規定シタル行政

廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

警視總監、北海道廳長官、府縣 東京府ヲ除ク以下之ニ依リテ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 第二條、第三條第一項第二項、第六條及第

七條ニ違背シタル者ハ一圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本則 第二條 支店ヲ設クルトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ツヘシ

第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所氏名ノ

異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ツヘシ  
支店ヲ閉鎖スルトキ亦同シ

後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ行政廳ニ届出ツヘシ但シ死亡者非戸主ナルトキハ其死亡ハ戸主ヨリ届出ツヘシ

後見人ニ由リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届出ルニハ其後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ツヘシ



② 狩獵法 明治二十八年三月  
法律第二十號

四百九十四

(衆)本法 第一條 此ノ法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、鞆繩又ハ挾ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ  
前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免犯ヲ受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法 第六條 狩獵ヲ爲サムト欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但シ柵、柵、圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス  
第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一個年ヲ經過セザレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ム

- ヘシ
  - 一等 所得稅十五圓以上若ハ地稅貳百圓以上納ムル者
    - 甲種金五圓
    - 乙種金拾圓
  - 二等 所得稅三圓以上若ハ地稅四十圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族
    - 甲種金壹圓五拾錢
    - 乙種金三圓
  - 三等 一等二等以外ノ者
    - 甲種金五十錢
    - 乙種金壹圓
- 第十四條 十六歲未滿ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

(關)本法 第二條 爆發物、据銃若ハ危險ナル毘及陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス  
前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ付テハ地方長官 東京府下ハ警視 總監以下做之  
ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ

(シ)狩獵法

四百九十五



便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、月没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、氣車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

〔關〕本法 第四條第七號 欄、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及ヒ免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者

ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條第二項 警察官、憲兵、森林官、及市町村長ハ

獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得

同條第三項 前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十七條第一項 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之

ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ禁止又ハ停止以前ニ

於テ捕獲シタル鳥獸ハ其禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間

以内ニ於テ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取り若ハ販賣スルコトヲ禁ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

〔關〕本法

第十二條第一項

獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

第十三條第一項

免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下附シタル官廳ニ届出ヘシ

(シ)狩獵法



第十五條 免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

② 獸疫豫防法

明治二十九年三月法律第六十號

(參) 本法

第一條

此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛、馬、羊、豕、犬ヲ謂ヒ獸疫ト稱スルハ左ノ十病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽
- 三 氣腫疽
- 四 鼻疽及皮疽
- 五 傳染性胸膜肺炎
- 六 流行性鷺口瘡
- 七 羊痘
- 八 豕虎列刺
- 九 豕羅斯疫
- 十 狂犬病

第十七條 第四條第一項ニ違背シタル者、第五條ノ命令ニ違背シタル者及第十五條ノ檢疫ヲ受ケス又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰

(シ) 獸疫豫防法



金ニ處ス

獸醫第二條ニ違背シタルトキハ罰亦同シ

〔關〕本法第二條 獸類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發

見シタル所有者管理人又ハ獸醫ハ直ニ其ノ旨ヲ所轄警察

署又ハ市町村長特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキモノ

ニ届出ヘシ

所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類ヲ撲殺シ

タルトキ亦同シ

第四條第一項 牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛、羊

及狂犬病ニ罹リタル犬ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官

及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ撲殺スヘシ

第十五條 外國ヨリ獸疫侵入ノ危険アリト認ムルトキハ有

病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ檢疫ヲ

行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

第五條 地方長官東京府ハ警視廳、監以下之ニ做フ 獸疫豫防上必要ト認ムルト

キハ病性鑑定ノ爲割檢ヲ要スル獸類ヲ撲殺シ又ハ鼻疽及

皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リタル

獸類ノ撲殺ヲ命スルコトヲ得

第十八條 第七條第八條第一項第二項第九條ニ違背

シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前

項ニ同シ

〔關〕本法 第二條 獸類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其疑アルコトヲ發

見シタル所有者、管理人又ハ獸醫ハ直ニ其旨ヲ所轄警

察署又ハ市町村長特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區市長又ハ之ニ準

スヘキニ届出ヘシ

所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類ヲ撲殺

シタルトキ亦同シ

第七條 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法

律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ死體

ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官、獸醫又ハ檢疫委員

ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ

〔シ〕獸疫豫防法



前項ノ死體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ニ爲特ニ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 所有者又ハ管理人ノ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者、管理人、車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アル獸類ヲ繫留セシ場所、瀛車、船舶等ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ハ直ニ燒棄、埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條 此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ死體及病毒ニ汚染シタル物品ノ埋却地ハ發掘若ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限

リ其ノ市場、共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第十九條 第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ

處罰ス

(屬)本法

第三條 獸類獸疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎖錮シ若ハ健獸ト隔離シ其ノ監督ヲ受クヘシ

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入往來並病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得

刑法

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス



②清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

明治二十九年四月法律第八十號

第八條 退去期限若ハ猶豫期限内ニ退去セサル者及

禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

禁錮ニ處シ二圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔關〕本法第一條 清國及朝鮮國駐在ノ領事ハ在留ノ帝國臣民該地方

ノ安寧ヲ妨害セムトシ又ハ該地方ノ風俗ヲ壞亂セムトス  
ル者アルトキハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止ス  
ヘシ

第二條 在留ヲ禁止セラレタル者ハ十五日以内ニ退去スヘ

シ若期限内退去シ難キ正當ノ理由アリテ其ノ旨ヲ申立ツ  
ルトキハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

〔參〕本法第三條 在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ對シ不服

アルトキハ命令ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ領事ヲ經テ

外務大臣若ハ駐劄帝國公使ニ該命令取消ノ申請ヲ爲スコ  
トヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ命令ノ執行ヲ停止セス

第四條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ外務大臣若ハ駐劄帝

國公使ハ其ノ事實ヲ審査シ領事ノ命令ヲ認可シ若ハ之ヲ  
取消スヘキ命令ヲ爲スヘシ其ノ命令ハ確定ノモノトス

第五條 在留ヲ禁止セラレタル者營業上若ハ其證他ノ關係

ニ於テ其ノ地ヲ去リ難キ事情アリト認ムルトセハ領事ハ  
其ノ期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ  
得

第六條 保證金ヲ出シ在留ノ許可ヲ得タル者其ノ期限内再

ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ其保證金ヲ沒收シ仍  
ホ在留ヲ禁止スヘシ

第七條 在留禁止ヲ命セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ領

事ハ何時ニテモ職權ニ依リ又ハ所轄地方長官ノ證明ニ依  
リ該命令ヲ取消スコトヲ得

(シ)清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法



①酒造税法 明治二十九年三月 法律第二十八號

(衆)本法 第一條 此ノ税法ニ於テ酒類ト稱スルモノハ清、濁酒、白酒、味淋、燒酎、酒精ノ六種トス

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ酒類又ハ酒類製造用ノ酒母若ハ醪ヲ製造シタル者ハ二十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者又ハ間接國稅犯則處分法第十一條ニ依リ處分セラレタル者ニハ其ノ造石數ニ處シ造石稅ヲ課ス但シ酒母、醪ハ第四條第一種ノ稅率ニ從フ

前項ノ造石稅ハ其ノ際直ニ之ヲ納ムヘシ  
(關)本法 第二條 酒類ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ  
第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割

- 合ニ從ヒ造石ヲ課ス 一石 金十二圓
- 第一種 清酒、濁酒、白酒、味淋 一石 金十二圓
- 第二種 燒酎、酒精 一石 金十二圓
- 攝氏温器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量第一種ニ左テハ二十第二種ニ在テハ五十ヲ超過スルトキハ百分ノ一ヲ増ス毎ニ前項ノ金額ニ一圓ヲ加フ
- 第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムトスルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シク検査監督ヲ受クヘシ

間接國稅犯則者處分法

第十一條 「間稅署長」又ハ「分署長」ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒収ニ該ル者ハ沒収スヘキ物品并ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ  
前項ノ處分ハ罰金及沒収品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限リ「間稅分署長」之ヲ爲シ其他ハ「間稅署長」

(シ)酒造税法



之ヲ爲スモノトス

〔參〕本則

第十六條 酒類ヲ製造スル者造石稅ヲ完納スル能ハサル  
トキハ納稅保證人又ハ納稅ヲ擔保シタル酒造組合ノ各  
組合員ハ納稅者トシテ其ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第二十二條

酒類ヲ製造セサル者免許ヲ受ケスシテ  
酒母又ハ醪ヲ製造シタルトキハ十圓以上二百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法

第二十條 酒類ヲ製造セサル者酒母又ハ醪ヲ製造セムト  
スルトキハ政府ノ免許ヲ受ケ酒類ヲ製造スル者ト等シ  
ク其ノ検査監督ヲ受クヘシ

第二十三條ノ二

酒類ヲ製造セサル者第二十一條ノ  
禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金  
ニ處ス

〔關〕本法

第二十一條 酒類ヲ製造セサル者ノ製造シタル醪ハ他人  
ニ讓渡シ、質入シ飲料トシテ消費シ又ハ政府ノ承認ヲ  
受ケスシテ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第二十三條ノ三

前二條ニ依リ處罰セラレタル者又  
ハ間接國稅犯則者處分法第十一條ニ依リ處分セラ  
レタル者ハ濁酒ヲ製造シタル者トシ其ノ製造ニ係  
ル總石數ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ其ノ際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十四條

酒類ヲ製造スル者詐偽其ノ他不正ノ所  
爲ヲ以テ造石數ノ査定ヲ免カレ又ハ免カレムトシ  
タルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金  
若ハ科料ニ處ス

〔參〕本法

第八條 酒類ノ造石數ハ製成ノ時之ヲ査定ス  
酒類ノ造石數ヲ査定スルハ容器ノ容量ニ依ル但シ清酒  
ニ限り命令ノ定ムル所ニ依リ査定石數百分二以内滓引  
ノ減量ヲ控除スルコトヲ得

犯則其ノ他ノ事故ニ依リ前各項ニ依リ難キ場合ニ於テ  
ハ現在ノ酒類又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定ス

(シ)酒造稅法



第九條 粕漉シタル酒類ハ粕漉ニ依リ増加シタル分ノミ

ニ就キ其ノ造石數ヲ査定ス

第十條 酒類ヲ製造スル者ノ製造ニ係ル醪ハ左ノ場合ニ於テハ濁酒ヲ製成シタルモノトシテ其ノ造石數ヲ査定ス

一 他人ニ讓渡ストキ

二 公賣セラルルトキ

三 飲料ニ供シ又ハ酒類製造用ノ外ニ供スルトキ

第二十五條

酒類ヲ製造スル者故意ニ事故ヲ作為シ

又ハ詐術ヲ構ヘ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタルトキハ其ノ石數ノ造石稅三倍ニ相當スル罰金若

ハ科料ニ處ス

(參)本法

第十二條 左ノ酒類ハ其ノ造石稅ヲ免除スルコトヲ得但

シ製造場外ニ移出シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 災害ニ罹リ酒類ノ廢棄ニ屬シタルモノ

二 廢敗シタル酒類ニシテ政府ノ承認ヲ得酒類トシテ

飲用スヘカラサル處置ヲ施シタルモノ

三

廢敗シタル酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ第二種ノ酒類ノ製造ニ供スルモノ

四

容器ノ損傷若ハ塞栓ノ自然ノ脫去ニ依リ酒類ノ亡失シタルモノ

第二十六條

納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒

類ヲ他人ニ讓渡シタル者滯納處分ヲ受クルモ仍稅

金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ其ノ不足造石稅

ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處ス

(參)本法

第十七條

酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第二十七條

酒類製造用ト否トヲ問ハス其ノ製造シ

タル酒母又ハ醪ノ検査ヲ免レ又ハ免レムトシタル

者ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(參)酒施

第二十七條

酒類用原料品中酒母又ハ醪ノ検査ハ熟成ノ

(シ)酒造稅法



時ニ於テ之ヲ行フ但シ其ノ熟成シタル酒母又ハ醪ヲ製造場内ニ移入シタルトキハ其ノ移入ノ時ニ於テスヘシ酒母、醪以外ノ原料品ハ其ノ使用前便宜之ヲ検査スヘシ其ノ検査後ニアラサレハ酒類製造主ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十八條 酒類ヲ製造スル者第十七條又ハ第十八條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法

第十七條 酒類ヲ製造スル者納稅保證トシテ保存ノ義務ヲ有スル酒類ハ之ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第十八條 酒類ヲ製造スル者ハ造石數査定前ニ於テ其ノ酒類ヲ他人ニ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第二十九條 酒類ヲ製造スル者酒類ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リタル者ハ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

(參)本法

第十九條 收稅官吏ハ命令ノ規程ニ依リ酒類ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及酒類製造上必要ナル建築物ノ材料、器械其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

酒施

第四十三條 酒類製造主ハ酒造用原料品及酒粕ノ受拂、酒母及醪ノ仕込、燒酎又ハ酒精ノ造り込、酒類ノ藏出、受拂、増減ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ但シ他ノ法律命令又ハ商業上ノ慣例ニ依リ設備スル帳簿ニシテ本文ノ事項ヲ明ニスルモノアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 酒類ヲ製造スル者收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

(シ)酒造税法



〔關〕刑法

第三百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ  
行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ  
其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ  
處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシ  
メタル者亦同シ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ  
毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第三十一條 此ノ税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論  
罪及減輕、再犯加重、數罪具發ノ例ヲ用井ス但シ刑  
法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔關〕刑法 第七十五條第一項 抗拒スヘカラサル強制ニ遇ヒ其意ニ  
非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

第三十二條 酒類ヲ製造スル者ノ代理人、家族、同  
居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ  
此ノ税法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ

出サルノ故ヲ以テ此ノ税法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得  
ス

第三十三條 第二十九條乃至第三十二條ハ酒類ヲ製  
造セサル者ニシテ酒母又ハ醪ヲ製造スル者ニモ適  
用ス



⑦種牡馬検査法明治三十年三月  
法律第十二號

第七條 検査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若クハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(關)本法 第一條 牡馬ハ此ノ法律ニ依リ毎年検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス

第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ但地方ノ狀況ニ依リ此年限ニ依ラサルコトヲ得

前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認めタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第三條 證明書ノ效力ハ滿一箇年トス

(參) 第六條 學術研究ノ爲牡馬ヲ種付ケニ使用セントスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトアルヘシ

⑧森林法明治三十年四月  
法律第四十六號

(參)本法 第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料

林、國有林、部分林、社寺林及私有林ヲ云フ

第二條 原野山嶽其ノ他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此ノ法律ヲ適用ス

(參) 第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在

ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂壞崩流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 頽雪、墜石ノ危険ヲ防止スルニ必要ナル箇所
- 五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所
- 六 魚附ニ必要ナル箇所
- 七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所

(シ)森林法



八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所  
九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第三十七條 森林ニ於テ其主副産物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金又ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其主副産物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第三十八條 森林竊盜ニシテ左ニ記載シタル所爲アルトキハ二圓以上贓額二倍以下ノ罰金及貳月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

- 一 根株ヲ毀壞若ハ隱蔽シテ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタルトキ
- 二 贓物ヲ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油

其ノ他ノ物品ヲ製シタルトギ

- 三 贓物ヲ燃料トシテ鑛物ノ採取精製若ハ石灰、煉瓦石、瓦其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ

- 四 犯罪ヲ容易ナラシムル爲船舶ヲ使用シタルトキ
- 五 保安林ニ於テ盜伐ヲ爲シタルトキ
- 六 林産物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ其ノ罪ヲ犯シタルトキ

七 三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其罪ヲ犯シタルトキ

八 契約ニ依リ森林保護ノ義務ヲ有スル者其ノ罪ヲ犯シタルトキ

九 差押ノ贓物ヲ隱匿若ハ消費シタルトキ  
第三十九條 森林竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受

(シ)森林法



ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二圓以上  
上贓額二倍以下ノ罰金及一月以上三年以下ノ重禁  
錮ニ處ス但シ罰金ハ贓額以下ニ下スコトヲ得ス

第四十條 他人ノ所有ニ屬スル森林ノ樹木ヲ傷害シ  
タル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ  
處シ因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス其  
ノ自己ノ森林ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重  
禁錮ニ處ス

第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シ  
タル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉シ若ハ毀  
壞シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其  
ノ經界ヲ表シタル物件ニ係ルトキハ刑法第四百二

十條ヲ適用ス

〔關〕刑法 第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ  
移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓  
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十四條 立木、木材又ハ根株ニ附シタル記號印  
影ヲ變更若ハ消除シタル者ハ二圓以上二十圓以下  
ノ罰金ニ處ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シ  
タル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林  
又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一  
日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ

〔關〕本法 第六條 森林ヲ開墾セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受  
クヘシ

第四十六條 保安林ニ於テ皆伐ヲ爲シ又ハ禁止若ハ

(シ)森林法



制限ノ命令ニ違背シテ伐木ヲ爲シタル者ハ其ノ伐探シタル木材代價相當ノ罰金ニ處ス

〔參〕本法 第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス  
第二十一條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ保安林ノ伐木ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法 第十三條 保安林ニ編入ノ爲地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定ノ日マテ其ノ立木ノ伐採、土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保安林ニ於テ土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘又ハ牛馬ノ放牧ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法 第三十二條 伐木造材ヲ業トスル者ノ手板帳簿器具等ニ對シ森林官吏又ハ警察官吏ノ検査アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十九條 第三十三條第三十四條又ハ第三十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本法 第三十三條 森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ得スシテ森林内ニ火入ヲ爲スコトヲ得ス  
第三十四條 森林ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲ストキハ森林ニ對シテ豫メ防火ノ設備ヲ爲スヘシ  
第三十五條 森林ニ於テ濫ニ焚火ヲ爲シ又ハ炬火ヲ携帯スルコトヲ得ス

第五十條 第三十一條ニ違背シタル者ハ五十錢以上ノ科料ニ處ス

〔關〕本法 第二十一條 伐木造材又ハ木材賣買ヲ業トスル者ハ林産

(シ)森林法



物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ所轄警察署ニ届置クヘ  
警察署ハ他人ノ記號又ハ印章ニ類似スルモノノ使用ヲ  
禁止スルコトヲ得

第五十一條 此ノ法律ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者  
ニハ刑法ノ數罪具發ノ例ヲ用キス

(參)刑法

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發  
シタルトキハ一ノ重キニ從テ處斷ス  
重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ  
者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第一百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタルトキハ各其刑ヲ  
科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ  
從フ

第一百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其  
輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ  
論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金

科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ  
折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス  
若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セザル罪再犯ノ罪ト  
俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發  
ノ刑ヲ通算セス



①私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣所繼規則

(明治三十年七月遞信省令第二十四號)

(乘)本則 第一條 此ノ規則中單線ト稱スルハ電氣傳送ニ

用フル金屬線ヲ謂フ

第二條 此ノ規則中電路ト稱スルハ發電機電線  
其ノ他ノ器具、大地等電流ノ通過スル一全路  
ヲ謂フ

第三條 此ノ規則中低壓ト稱スルハ直流法ニア  
リテ六百「ヴォルト」交流法ニアリテハ三百實  
效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ直流法ニ  
アリテハ三千五百「ヴォルト」交流法ニアリテ  
三千五百實效「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ  
謂フ

特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過セル電  
壓ヲ謂フ

第五十六條 事業者此ノ規則第四條、第二十八條前段、

第二十九條、第四十二條、第四十八條、第四十九條ノ  
規定ニ違反シ又ハ第五十一條及第五十二條ノ届出  
ヲ爲サス又ハ第四十六條ノ記録ヲ差出サス若ハ第  
二十四條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、及第  
四十一條ノ記録ヲ爲ササル者ハ五十錢以上一圓九  
十五錢以下ノ料料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ  
處ス

前項ノ罰則ハ其ノ所爲ヲ爲シタル取締役若ハ使用  
人ニ之ヲ適用ス

(關)本則 第四條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流法ニシテ其ノ電壓

ハ六百「ヴォルト」以下タルヘシ但シ六百「ヴォルト」以  
上ノ電壓又ハ交流法ノ電氣ヲ使用セムトスルトキハ遞  
信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分  
ニ起ルヘキ最大電位ノ差及二十五條ニ規定スル接地點  
ヨリ發電氣ニ向テ流ルル電流ハ常ニ之ヲ表示スルノ裝

(シ)私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣所繼規則



置ヲ爲シ之ヲ毎日記録シ置クヘシ

第二十五條 發電氣ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ於テ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用ヒテ兩接地點間ニ二「アムペアー」以上ノ電流ヲ發セシムル様施設シ少クトモ毎月一回以上之ヲ試験シ其成績ヲ記録シ置クヘシ

前項接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設シ又埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上タルヘシ  
本條ニ適合セル接地點ヲ得難キ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第二十七條 前條第一項本文漏洩電流ハ毎日より第一項但書ノ絶縁力ハ毎月一回使用最大電壓ヲ用ヒ之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第二十八條 歸線ト金屬體トノ電氣的接續ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ接續ハ最モ善良ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三箇月毎ニ一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録シ置クヘシ

第三十九條 電柱ニハ事業者名並電柱ノ番號ヲ記スヘシ  
高壓電線ヲ支持スル腕木ハ其ノ全部ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第四十一條 毎日運轉スル車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ヲ記録シ置クヘシ

第四十二條 事業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ置キ工事施行前其ノ履歷書ヲ添へ遞信大臣ニ届出ツヘシ爾後之ヲ變更シタルトキハ三日以内ニ其ノ履歷書ヲ添へ届出ヘシ但シ遞信大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトアルヘシ

第四十八條 事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ出張負ハ該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯スヘシ

第四十九條 事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ其區域内ノ電線ヲ遮斷スヘシ

(シ)私設鐵道條例ニ據ル電氣鐵道電氣所繼規則



前項ニ依リ送電ヲ止メタル區域内電線ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第五十一條 事業者ハ其ノ事業ヨリ災害其他ノ故障ヲ生シタルトキハ其ノ時日、場所、原因及狀況等ヲ具シ遞信大臣ニ届出ヘシ

第五十二條 左ノ事項ハ三日以内ニ遞信大臣ニ届出ヘシ

- 一 主任技術者ノ改氏名
- 二 送電ノ停止及廢止但シ其理由ヲ記スヘシ
- 三 幹線又ハ絕縁歸線ノ増設又ハ變更
- 四 車輛數及其ノ増減

第四十六條 遞信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ第二十四條第二十五條第二十七條第二十八條及第四十一條ノ記録ヲ差出サシムルコトアルヘシ

⑤ 所得稅法

明治三十二年二月 法律第十七號

(參) 本法

第一條 帝國內此ノ法律施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一箇年以上居所ヲ有スル者ハ此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ニ該當セサルモノ此ノ法律施行地ニ資産營業又ハ職業ヲ有スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 第一種 法人ノ所得 千分ノ二十五
- 第二種 此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ爲ス公債社債ノ利子 千分ノ二十

- 第三種 前各種ニ屬セサル所得
  - 十萬圓以上 千分ノ五十五
  - 五萬圓以上 千分ノ五十
  - 三萬圓以上 千分ノ四十五
  - 二萬圓以上 千分ノ四十

(シ) 所得稅



一万五千圓以上	千分ノ三十五
一万圓以上	千分ノ三十
五千圓以上	千分ノ二十五
三千圓以上	千分ノ二十
二千圓以上	千分ノ十七
一千圓以上	千分ノ十五
五百圓以上	千分ノ十二
三百圓以上	千分ノ十

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ第三種ニ限リ之ヲ合算シ其ノ總額ニ依リ本條ノ稅率ヲ定ム戸主ト別居スル家族二人以上同居スルハ亦同シ

第四條 所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス

一 第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險責任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル

二 第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル

三 第三種ノ所得ハ總収入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル豫算年額ニ依ル但シ此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケサル公債社債ノ利子、營業ニ非サル貸金、預金ノ利子、此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル法人ヨリ受ケタル配當金、俸給、給料、手當金、割賦賞與金、歳費、年金、恩給金ハ其ノ収入額ノ豫算年額ニ依リ田畑ヨリノ所得ハ前三箇年所得平均高ヲ以テ算出スヘシ

前項第一號ノ場合ニ於テ益金中此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受ケタル配當金及此ノ法律施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債社債ノ利子アルトキハ之ヲ控除ス

第五條 左ニ掲クル所得ニハ所得稅ヲ課セス

- 一 軍人從軍中ニ係ル俸給
- 二 扶助料及傷疾病者ノ恩給



三 旅費學資金及法定扶養料

四 營利ヲ目的トセサル法人ノ所得

五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得

六 外國又ハ此ノ法律ヲ施行セサル地ニ於ケル

資産營業又ハ職業ニ依ル所得但シ此ノ法律施

行地ニ本店ヲ有スル法人ノ所得ヲ除ク

七 此ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレタル法人

ヨリ受クル配當金

第六條 第三種ノ所得ハ三百圓ニ滿タサルハ所

得稅ヲ課セス但シ第三條第二項ノ場合ニ於テ其

ノ合算額三百圓ニ滿ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 所得金額ヲ隱蔽シテ逋稅シタルモノハ

其ノ逋稅金高二倍ノ罰金ニ處ス但自首スルモノハ

其稅金ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第四十七條 所得ノ調査又ハ審査ニ干與スル者其ノ

調査又ハ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩シタルトキハ

三十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニヨリ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フモノ

トス

(關)本法第十條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務者又ハ

納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書

ヲ製シテ之ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

條十一條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査委員會ニ出席

シ意見ヲ陳述スルコリヲ得

第三十七條 前條ノ請求アリタルトキハ審査委員會ヲ開キ

其ノ決議ニ依リ政府之ヲ決定ス

審査委員會ハ收稅官吏三人調査委員四人ヲ以テ之ヲ組織

ス

審査委員會ノ所屬區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

審査委員會ハ前條ノ申立ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ

關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

(シ)所得稅法



〔衆〕第三十六條

納稅義務者政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ審査ヲ求ムルコトヲ得

② 商標法

明治三十二年三月  
法律第三十八號

〔衆〕本法第一條

自己ノ商品ヲ表彰スル爲商標ヲ專用セン  
トスル者ハ此ノ法律ニ依リ其ノ登録ヲ受クヘ  
シ

第十五條

證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ偽證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ偽證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ  
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定若ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

〔關〕本法第二十條 特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一條第二十三條第二十八條乃至第三十七條第

(シ)商標法



四十三條及第五十一條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス  
〔關〕特許法第三十一條 特許局ノ審査、審判及報酬額ノ決

定ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ當事者ノ申  
立ニ因リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱  
フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコト  
ヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一  
章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第十六條

他人ノ登録商標ナルコトヲ知り其ノ承諾  
ヲ經スシテ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シ之ヲ  
交付若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ登録商標ト同一  
若ハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ  
知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル  
者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五  
百圓以下ノ罰金ニ處ス  
他人ノ登録商標ヲ有スル容器、包裝等ナルコトヲ

知リ之ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知りテ其  
ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者又ハ他  
人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ其ノ商品販  
賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項  
ニ同シ

〔關〕本法第十八條 第十六條及第十七條ノ場合ニ於テハ商標及商標

ヲ表示スヘキ原具ヲ沒收ス其ノ商標ト分離スヘカラサル  
商品、容具、包裝等ハ之ヲ毀壞セシム

第十九條 第十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ  
論ス

第十七條

詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ受ケタル  
者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録標記ヲ附シ若ハ  
之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知りテ其  
ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ十五  
日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下

〔シ〕商標法



ノ罰金ニ處ス

登録ヲ受ケスシテ登録標記又ハ之ニ紛ラハシキ表示ヲ付シタル商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

〔關〕本法第十八條 第十六條及第十七條ノ場合ニ於テハ商標及商標ヲ表示スヘキ原具ヲ沒收ス其ノ商標ト分離スヘカラサル商品、容器、包裝等ハ之ヲ毀壞セシム

② 宿泊届其他ノ件 明治三十二年七月  
内務省令第三十二號

第十條 第九條ニ違背シテ警察官ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルニ實ヲ以テセス又ハ其ノ請求ニ應セサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本令 第九條 第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項又ハ第七條登録簿ニ登録スヘキ事項其ノ他本人家族寄寓者ニ關シ警察官吏ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ旅券又ハ其ノ他國籍ヲ證明スヘキ證書ヲ携帯スル外國人ハ警察官吏ノ請求ニ依リ之ヲ示スヘシ

刑法 第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢齒職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(シ) 宿泊届其他ノ件



第十一條 第一條第三條第一項第二項第四條及第五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓二十五錢以下ノ科料ニ處シ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二條及第三條第三項ニ違背シタル者ハ一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

(關)本令 第一條 旅店主其ノ他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシムル者ハ廳府縣令ニ依リ其ノ斷定ノ事項ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ届出ハ廳府縣令ニ規定アル場合ヲ除クノ外派出所若ハ駐在所ノ巡查又ハ巡回ノ警察官吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 宿泊者ハ其ノ家ノ主人若ハ管理人ノ請求アルトキハ第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ主人若ハ管理人ノ交付セル用紙ニ之ヲ記載スヘシ  
第三條 一戸ヲ構ヘテ居住シ又ハ一戸ヲ構ヘサルモ九十日以上同一市町村ニ居住スヘキ目的ヲ以テ居住スル外

國人ハ自己及其ノ携帶セル家族ニ關シ氏名國籍職業年齡居住所、居住ノ年月日、前居住所、外國ニ於ケル住所及携帶セル家族ノ續柄ヲ居住ノ日ヨリ十日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ニ該當セサルモ九十日以上同一市町村ニ居住シタル外國人ハ九十日ノ末日ヨリ十日内ニ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

外國人一戸ヲ構ヘサル場合ニ於テハ之ヲ寄寓セシメタル者又ハ外國人他人ノ家屋ヲ借受ケ一戸ヲ構ヘタル場合ニ於テハ家屋所有者若ハ家屋管理人第一項及第二項ノ届書ニ連署スヘシ

日本ノ國籍ヲ失ヒ猶引續同一居住所ニ居住スル者ハ本條ノ届出ヲ要セス

(關)第十二條 本令施行ノ際現ニ帝國版圖ニ居住セル外國人ニ關シ第三條第一項第二項ニ定ムル届出ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

第四條 第七條ノ登録簿ニ登録セラレタル外國人移轉スルトキハ左ニ記載シタル者移轉ノ日ヨリ十日内ニ移轉

(シ)宿泊届其他ノ件



ノ年月日及移轉先ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ第四號ニ依リ移轉者自ラ届出ヲ爲スヘキトキハ其ノ届出ハ移轉前タルヘシ

一 寄寓ノ外國人移轉シタルトキハ之ヲ寄寓セシメタル者

二 一戸ヲ構ヘタル外國人ノ家族移轉シタルトキハ其ノ外國人

三 一戸ヲ構ヘタル外國人自ラ移轉シ家族猶其ノ戸ニ留ルトキハ首長タルヘキ成年者若シ首長タルヘキ成年者ナキトキハ成年者中ノ年長者

四 一戸ヲ構ヘタル外國人ニシテ其ノ家屋ヲ所有スル者全戸他ヘ移轉スルトキハ其ノ外國人

五 前各號ニ該當セサルトキハ家屋所有者又ハ家屋管理人

第五條 第七條ノ登録簿ニ登録セラレタル外國人自己又ハ家屋ノ姓氏國籍ニ變更ヲ生シタルトキハ變更ノ日ヨリ十日内ニ所轄警察官ニ届出ヘシ

刑法

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍

自分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ借用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



⑤ 條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外

國人ノ居住及營業等ニ關スル 明治三十二年七月 勅令第三百五十二號

第一條 前條第一項但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本令

第一條 外國人ハ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セ

サル者ト雖從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住、移轉、營業其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ勞働者ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ從前ノ居住地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス勞働者ノ種類及本令施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

⑤ 私立學校令 明治三十二年八月 勅令第三百五十九號

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條第一項ノ手續ヲ爲ササル者及第二條第二項ノ規定ニ違反シタル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔關〕本令

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲ス者ト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依ラシムヘシ

第二條 私立學校ヲ設立セントスル者トハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

私立學校ノ廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ

〔シ〕私立學校令